



アグリホットニュース 2023 4号

令和5年8月
(株)ネイグル新潟

【異常気象(高温 & 日照不足)の克服による半俵増収の決め手！】

稲刈り後に省力作り作戦(お礼肥の秋施用)を実行しましょう！

A 「こしいぶき・わたぼうし・ゆきん子舞・つきあかり など」で急激な葉色の低下や、紋枯病・ごま葉枯病の多発圃場。



◇母(C^かA・K)様(粒状) 2袋/10a
⇒土壤のミネラルバランス改善

- ◇石灰窒素(粒状) 1袋/10a (基肥のN成分は約1kgカウント)
 - ①雑菌を殺し、雑菌の密度を下げる。
 - ②ノビエの休眠覚醒により、雑草種子の密度を下げる。
 - ③イネアオムシ(フタオビコヤガ)の越冬サナギの密度を下げる。
 - ④生ワラを腐植させ地力を高める。

B 「コシヒカリ・新之助 など」で急激な葉色の低下圃場や減収圃場。



◇ホスピタR(P5.0、Mg11.5、Si13.5) 2袋/10a
⇒初期生育アップによる穂数確保

◇ボカシ大王エコS(5.4-4.5-2.8、Mg1) 1~2袋/10a
⇒生ワラを腐植させ地力を高める (チッソ成分は1kgカウント)

C 地力低下田で品種に関わらず、地力の低い圃場に対し未熟堆肥の替わりに！



◇腐植無双極(粒状) 2~3袋/10a
⇒腐植酸(フミン酸)により地力UPと肥料成分の保持や肥効の安定に！



◇粒状 土いきいき 1~2袋/10a

◇市工門(10kg) 1袋/10a

⇒含有する微生物の働きで稲ワラ等の有機物を分解し、地力の源になります！

※上記A、B、Cコース共通で、刈取り後に秋施用し早期に軽く耕起しましょう。

☆増収の為の裏ワザ！！

稲刈り後、溝切りによる表層排水を実行しましょう。

⇒春の田乾きが良く、初期生育UPと穂数UPが実現できます！